

栄光輝く

公益社団法人・ひょうご農林機構
理事長賞

農事組合法人・いずみ営農組合(小嶋美則組合長・50人)が優良集落営農組織として、ひょうご農林機構から同機構理事長賞を受賞しました。同組合は農業の高齢化・後継者不足などの課題を解決するため、2017年に法人化。水稻、黒大豆、山の芋の栽培・管理に取り組まれています。

組合は地域の農地の受け皿として、組合員の自営農家や大規模農家と連携して農地の保全と経営安定を図られているほか、環境に配慮した「農都のめぐみ米」の栽培、「ANAグループ」と黒大豆栽培を通じた都市との交流など、地域農業の活性化に取り組まれています。

賞を受けて、小嶋組合長は「これまでやってきたことが認められ、とてもうれしいです。今後も、経営にさらに力を入れ、ネット販売などの販路の拡大に取り組み、収益確保につなげていきたい」と笑顔で話されました。

農事組合法人 いずみ営農組合



おじまよしのり
小嶋美則組合長(右)と
なかのあきお
中野彰夫広報部会長

ガッポラ

学生ボランティアが地域課題を解決!

地域が抱える課題に取り組む大学生がいることをご存知ですか?ゼミやサークルの活動として、さまざまな学生団体が地域の協力のもと活動されています。

今回から、地域で頑張る学生の皆さんを紹介します。

問い合わせ 創造都市課 ☎552-5106

Today's Report 竹林整備



神戸学院大学 現代社会学部 菊川ゼミ

“どろくさく”地域の課題を解決!

竹林の整備や山賊ワイルドラン(ファンランイベント)の開催などをとおして地域の課題解決に取り組んでいます!

1 草刈り

大草を刈ることで竹林整備を行いやすくします。



2 竹の間伐

枯れた竹や混み合っている竹を間伐します。竹林を放置すると竹が高密度化し、景観の維持や管理が難しくなるためです。



3 たけのこ掘り

たけのこを掘ることも竹林整備の1つです。たけのこは大学構内の学食で使用されました。



「丹波篠山だからできること」を

3回生 新川裕士さん

篠山鳳鳴高校出身で「地域探求」の授業で地域に興味をもって、学生主体で地域づくりを企画できる菊川ゼミに入りました。丹波篠山は正直課題もあると思いますが、だからこそ地元で学びたいと僕は思っています。フィールドワークでは地元に入って学んで、丹波篠山で頑張っている人などを知ることができました。活動を通じてつながりを作り、「丹波篠山だからこそできること」を見つけていきたいです。

「地域の一員」を体験

3回生 妹尾智奈乃さん

丹波篠山では住民が自分たちで溝掃除などをしていて、行政じゃなく市民主体で地域活動をしていることに興味を持ちました。自分は地域活動が身近ではなかったので、ゼミを通じて地域の一員として活動するのがすごいと思いました。実際に地域のお手伝いにやりがいも感じ、地元ではできない体験ができてよかったなと思います。

地域の方の声

この竹林は武家屋敷を囲うようにあり、伝建地区の一部でもあるので保存しなくてはなりません。しかし、どんどん伸びる竹を定期的に整備するのは大変です。こうやってきれいにしていたら大助かりです。

竹林所有者 森本宏之さん



先生の声

「地域デザイン論」を専門に、地域づくりの一環で竹林整備やイベントを企画しています。過去に篠山東雲高校で教諭をしていました。丹波篠山が学生たちにとって第二の故郷になればいいなと思いながら日々活動しています。

神戸学院大学現代社会学部講師 菊川裕幸さん



前宝塚市長・中川智子さんが 子育て支援アドバイザーに就任

市教育委員会では、今年度から子育て施策をさらに充実させるため、前宝塚市長の中川智子さんに「子育て支援アドバイザー」を委嘱しました。

中川さんは、子育てサークル「キンダールーム」の開設や、「宝塚学校給食を考える会」を立ち上げるなど、自身の子育て経験を生かし活躍されています。就任に当たり、「子育ては、私の社会活動のスタートでした。子どもたちが生き生きと、親や地域の方と生きていけるようなまちづくりのためにがんばっていきたいです」と中川さん。

今後は、子育て講演会や子育て支援団体との交流会の開催に取り組まれるほか、「(仮称)丹波篠山市子育て応援・親子あそびフェスティバル」、子育ていちばんのまちづくりに向けてアドバイスをいただきます。



子育て支援アドバイザー
中川智子さん



HOT NEWS

今月のこんにちは市長室

市長が市政に対してのご意見やご要望をお聴きする場として開催しています。事前の申し込みは不要で、懇談会または1人15分程度の面談です。

とき 6月10日(月) 16:00~19:00

ところ 本庁舎3階 応接室

問い合わせ 秘書広報課 ☎552-5109

ふるさといちばん

市長の **HOT** とく

丹波篠山の時代をつくろう



市名変更5周年

丹波篠山市が篠山市から市名変更し、5周年となります。5月1日、商工会青年部の企画で「丹波篠山の日 誕生祭」が催され、節目をお祝いしました。篠山鳳鳴高校書道部によるパフォーマンスで幕開け、私からは「賛成・反対を乗り越え、市民が心ひとつにまちづくりを進めることができ、ブランドも高まりました。大切なのはこれから、この流れを地域の活性化につなげたいと思います」とあいさつしました。



クライマックスはプロジェクションマッピング、お城の石垣に桜の花、お花畑、デカンショの踊り手などの巨大な映像が映し出され、これを舞台に子どもたちのダンサーが踊り、大きな歓声に包まれました。

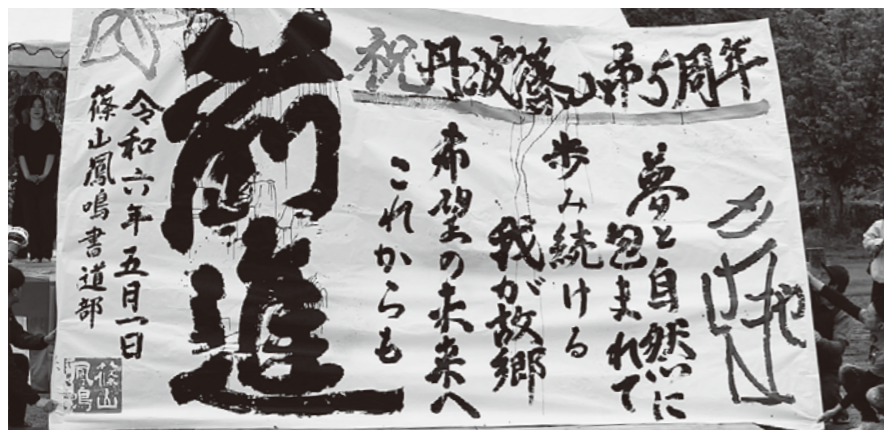
経済効果は「75億円以上」

市名変更による経済効果について、当時「10年間で52億円以上」という数字が出されましたが、昨年から調査の結果、それを上回る「75億円以上」との報告がありました。「丹波篠山」がどこを指すのかについて、理解されている方がアンケートでは30%以上増え、認知度が高まっていることからです。



大切なのはこれから

このようによい流れにあります。私は大切なのはこれからだと思います。それぞれの地域や集落で、いかに集落農業を守ったり、若い人を呼び戻したり、定着を図れるかが大切です。鳳鳴高校の生徒が書道で書かれた「夢と自然に包まれて、歩み続ける我が故郷、希望の未来へ」これも前進です。



夢へのかけはし

教育やスポーツ、文化・芸術などの分野で活躍する若者たちを紹介します。

「大阪交響楽団コンサート in 丹波篠山」に出演



大阪交響楽団首席フルート奏者
三原 萌さん

市出身のフルート奏者で丹波篠山市のふるさと大使も務める三原萌さん。6月22日に田園交響ホールで開演する「大阪交響楽団コンサート in 丹波篠山」に出演されます。小学6年生からフルートを始めた三原さん。篠山鳳鳴高校3年の時、全日本学生音楽コンクールで3位に輝かれました。その後、東京音楽大学に進学。卒業後はウィーン国立音楽大学やフランクフルト芸術音楽大学で学び、2019年に兵庫芸術文化センター管弦楽団(PAC)に入団。音楽家としてデビューし、2022年からは大阪交響楽団首席フルート奏者として活躍されています。

今回の公演では、オーケストラをバックに「イベールのフルート協奏曲」を演奏されます。「この曲は、いつかオーケストラでやりたいと思っていた曲。テンポの速い曲なので、オーケストラと合わせると、どんな感じになるのかとても楽しみです」と話されます。「大阪交響楽団は私がPAC在籍時に、人生で初めて客演首席奏者の仕事をさせていただいた思い出深い楽団で、とても楽しく演奏させていただいています。ぜひ、オーケストラによる臨場感があふれる演奏をお楽しみください」と笑顔で話されました。チケットのお申し込みは田園交響ホール(552-3600)まで。

大学連携でんしよばと

問い合わせ
神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボ ☎506-6628
丹波篠山フィールドステーション ☎506-2366



丹波篠山フィールドステーションとは？

丹波篠山フィールドステーションは、神戸大学が丹波篠山市と連携して教育・研究・人材育成に取り組む拠点です。

また、ここは地域おこし協力隊の活動拠点にもなっており、コーディネートする(一社)丹波篠山キャピタルのスタッフも駐在しています。地域おこし協力隊員もシェアオフィスとして利用している当施設に、皆さんも気軽にお越しください！



フィールドステーションを拠点に働くスタッフ紹介！



あべりあん
安部 梨杏
神戸大学大学院
農学研究科
特命助教

まちづくり協議会の活動や中間支援組織について研究中。地域の方とたくさん交流できることを楽しみにしています。



みほらかなこ
三原 香奈子
神戸大学大学院
農学研究科
教育研究補佐員

施設管理や事務のほか、祭囃子などの音楽の保存・伝承に取り組んでいます。丹波篠山の交流や研究の拠点となる施設づくりをめざします。



(一社)丹波篠山キャピタル
地域おこし協力隊コーディネーター

左から
谷垣友里、河口英樹、岩瀬綾子

地域おこし協力隊の活動支援を主に行っており、隊員を受け入れているまちづくり協議会との連絡・調整なども担っています。お住まいの地区のまちづくり協議会で、隊員を受け入れてみたい場合は、気軽にお問い合わせください。